#### ①作品の概要

閑静な住宅地に建つ0~2歳児のための民間運営の認可小規模保育園。

木造2×4の専用住宅からのコンバージョンである。

色や形、さまざまなモノに初めて触れる年齢の子どもたちが、木材を多用したプリミティブな造形の空間で、見て、感じ、考え、触れて、体感し、素材感を楽しみながら創造性や感性を育むことができる空間を目指した。







外に出られない時間も、屋外で遊ぶような感覚で過ごせる空間。

外観は既存住宅の佇まいを尊重し、周辺に突出した印象を与えないよう配慮した。

#### ②課題の着眼点

- ・閑静な住宅地では敬遠されがちな保育園をいかに受け入れてもらうか。
- ・既存の水廻り配管や全館空調用のダクトなどの性能を維持しながら、新たな空間にどのように取り込むか。
- ・構造特性を変更せず、保育園の基準を満たしながら、子どもたちがのびのびと生活できる空間をつくるか。
- ・限られたスペースのなかで、多人数が1日の大半を暮らす空間として、子どもたちと保育士たちが快適に過ごせるような空間作りをするか。





・基礎の性能を維持するため、既存の配管スリーブのみで新しい間取りと設備に対応しようとした。

・防音性能の高い断熱防火サッシに交換

・空間的に勾配の制約があった既存配管。

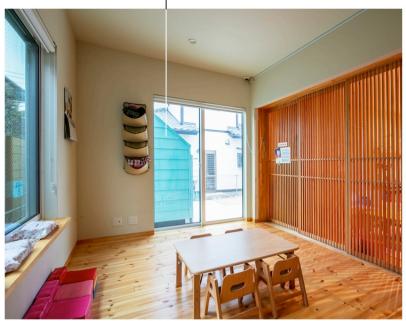
お気に入りの場所になるような、本を広げたり 絵を描いたりできる机、棚、照明を用意した。 ・子どもが自分でカバンや服、帽子などを-かけられるフック。手に触れる部分なの で大工が木を削って作った。

子ども達の手が届くところ、触れる部分は、建具や家具・造作など やわらかいパイン材で作っている。 和室を洋室にして利用。

1階保育室: 奥は2歳児室、手前は0歳児室(予定)

2室の間には、お互いを見通せる収納式建具を設えて一体的に広く使える。

窓越しに目に入る避難車の車庫は、子ども達が全体を把握できる大きさに抑え、シンプルは家形とし、遊具のような建物とした。



2室を仕切る格子戸は、お互いの気配とやわらかい光を伝える。 子どもの身体スケールに合った落ち着いた空間。





既存トイレと浴室を1室にした水廻り。

③課題へのアプローチ: 1階





2階は3室を一室にして1歳児室として利用する。部屋の中央の通る空調ダクトは、木材で包み、枝を生やして樹形の遊具「ことのはの木」とした。

出入り口は家の形をした格子戸とし、階段室に自然光が伝わるようにした。

「本のおうち」への出入り口













大人トイレ

保育士室も木質空間

屋外のように遊べる「ことのはの木」がある空間の奥には、本を眺めたり絵を描いたりできる、落ち着いた空間を用意した。

③課題へのアプローチ:2階







子ども達は「ことのはの木」にしがみついたり床に寝転んだりして、木の肌触りや匂い、温もりを五感のすべてを使って楽しんでいる。 あちこちに仕掛けた木の什器が、子ども達のための小さな特別な場所をつくり、子ども達の感性を刺激している。







玄関に入った途端に感じられる木の香りが良い - 保護者の感想

④実績・ユーザーの評価・エビデンス